

第十五回 「タマノカンザシにちなんだ恋文」 選評

概評

恋文審査の秋の日、ふと思いついて恋山形駅を訪うてみた。

ピンクが塗り替えられ、鮮やかだ。また、絵馬も直近の、愛への憧憬を綴ったものが何枚も掛けられていた。

思うにここは、若者に受け入れられている安らぎの空間であり、若者の聖地だ。

タマノカンザシの時期は過ぎている。が、想像するだけで心ときめく。タマノカンザシとはそんな花だ。

今年第十五回目の作品募集がなされ、全国から198点（短歌109、俳句89）が寄せられた。これらを拝見するのは実に楽しいし、また責任も重大である。

作者は老若男女さまざまな方々で、作品から年齢・性別を当てるのはなかなか難しい。予想がくつがえる時はまた楽しい。

短歌・俳句は思想の前に感性があるように思われる。すぐれた感性の輝きに出会った時は実に爽快である。

短歌の部

（最優秀賞）

夕に咲き朝に閉づらし白き花タマノカンザシ香を身に纏ふ

鳥取県倉吉市 徳田尚志

評語

「らし」という推定の助動詞がよく効いている。この語によって、タマノカンザシの奥深さ、神秘性が醸し出されている。下の句ではタマノカンザシの神々しさに対する作者の崇拜の念までもが伺える。

（優秀賞）

もも色のハートマークとタマノカンザシ力を借りて君に告白

神奈川県松田町 磯崎博司

評語

あけっぴろげな口語調で思いつき歌っている。「力を借りて」はまさにその通りで、この花とこの駅には、そのような霊力が漲っている。

(智頭急行社長賞)

許されぬ秘めたる想い恋駅舎タマノカンザシ我を見透かす

北海道札幌市 穂苅 敏

評語 「見透かす」は「見抜く」意。つまり「我」の事跡をタマノカンザシは見抜いていて、隠そうにも隠せない、という自責の念がある。

(山形郵便局長賞)

初デートタマノカンザシ香る駅会話繋げど手はまだ繋げず

栃木県鹿沼市 齋藤 匠

評語 初デートの頃はまあそんなものですね。でも、だんだんと互いに見つめ合
って理解も深まって、魂が触れ合うところまで、行きたいものですね。

(佳作)

うす闇にタマノカンザシ凜としてもう少しだけ待ってみようか

東京都品川区 松本多胡

評語 「もう少しだけあなたのおいでを待ってみようか」でも、タマノカンザシ、
見かけはキラっとしているが、内心はこころくじけて、「あなたは、わたしの
ことなど、忘れておしまいなのかもしれない」

(佳作)

夕闇に玉のかんざし黒鍵のエチュード叩く白い指先

埼玉県春日部市 三上一貴

評語 「夕闇」と「黒鍵」、「玉のかんざし」と「白い指先」、それぞれが重なり合
って妖艶な雰囲気醸し出されている。

俳句の部

(最優秀賞)

古希近し夢には若きタマノカンザシ

埼玉県宮代町 横手敏夫

選評

自分も人生を重ねて、古希といわれるところまで来た。この人生、男たるもの、若い頃出会った若い女性たちのことが懐かしく思い起こされる。

(応援歌)「人生七十古来希なり、と昔は言われたが、今はこの年などなんのその、人生の絶頂だ。まだまだ行けるぞ、夢いっぱいだよ、がんばれ」

(優秀賞)

月蒼くタマノカンザシ香り立つ

千葉県市川市 小田中準一

選評

「青」は緑がかった「あお」だが、「蒼」は「あお」の「あお」で日本人好みの色。そのような視覚的な月をタマノカンザシの上品な匂いと取り合わせて、恋の芽生えを歌っている。落ち着いたバランスよい句。

(智頭急行社長賞)

恋山形待つ僕寄り添うタマノカンザシ

鳥取県智頭町 木下ともみ

選評

タマノカンザシの心情としては、列車を待っている男の人に一抹の寂しさが漂っているのを感じ、これはそばに寄って付いてあげなければと、いたわりの情を寄せ、その心が「僕」に通じている。

(山形郵便局長賞)

逢いにゆくタマノカンザシ道しるべ

兵庫県宝塚市 今北真奈美

選評

タマノカンザシを介添え役とすると、主役の位置はもつともつと高められる。従って、「逢いにゆく」恋人は、至上の人、かけがいのない宝物。

(佳作)

恋ふたつたまのかんざし風に揺れ

神奈川県松田町 磯崎照子

評語

「恋ふたつ」は、タマノカンザシ「を」想う人(男性)と、タマノカンザシ「が」想う人(男性)は別々だということ。それでタマノカンザシの心は「揺れ」る。このことは古今東西よく起こりがちなので、どうしようもない。

(佳作)

今日のことタマノカンザシ黙ってて

京都府京都市 松本俊彦

評語

タマノカンザシは大らかな存在だから、事を暴き立てたりなど絶対しません。が、お釈迦さまが孫悟空を軽くいさめられたように、タマノカンザシからお咎めがあつてはいけないから、あなたも早く軌道修正しなさいね。

(佳作)

今年こそタマノカンザシ咲き誇る

埼玉県戸田市 峯岸泰希

評語

今年こそ僕たちお互いに高め合って成長していけるぞと、タマノカンザシに託して青春の息吹を歌っている。

記 審査委員長 武田博文